

高知憲法速報

№180 2008. 12. 11
 発行：高知憲法会議事務局
 088-872-3406
 編集人 事務局 徳弘嘉孝

12・8 平和のつどい

12月7日午後高知市で「12・8 平和のつどい」が開かれ、会場いっぱいの350人が参加しました。

高知県教組青年部有志のコーラスで幕を開け、ジャーナリストの堤未果さんが「私の国が持つ貴いもの 次世代に手渡せるものとは」と題して講演しました。講演要旨次の通り。

大統領選挙で47歳のオバマ氏を選び、「チェンジ」に懸けたアメリカは、追いつめられている。9・11を契機にアメリカが全く変わった。メディアは大量破壊兵器・テロの不安をあおり、子供を持つ母親がスーパーに走って銃を買ってきた。恐怖に支配され、愛国心と報復を叫び、より強いリーダーを求めた。愛国法、盗聴法などとともに、社会保障費の削減、個人情報の一元化、軍の民営化などが行われた。「落ちこぼれゼロ法案」が成立して、全国一斉学力テストの結果、成績が悪い学校は教員の減給、解雇、廃校などの措置が取られる。生徒の個人情報を軍のリクルーターに提出しなければ助成金がカットされる。リクルートシステムが貫かれ、貧困層が生き延びるための選択として入隊を選ぶ「経済徴兵制」が進行した。帰国した兵士達の多くがPTSDなど後遺症に苦しみ、離婚、アル中、ホームレスなどになっている。15万人の女性兵士の3人に一人が子持ちだが帰ってくると子育てができなくなってしまう。派遣会社に雇われ、運転手としてイラクの戦争に参加するといった「戦争の民営化」も進んだ。自己責任、病気でも死んでも補償がない安い労働力として使われている。しかしアメリカでも、母親、教育労働者、医療の現場、労働者たちの新しい運動が始まった。憲法を通して考えようともしている。私たちも有権者として政治を、消費者として企業を、読者・視聴者としてメディアを育てる取り組みを進めたい。子どもたちに未来のある社会を手渡すこと。最も大きい敵は「無知と無関心」、あきらめないことが大切だ。

自衛隊が行軍訓練 民主団体抗議行動

香南市の陸上自衛隊第14施設中隊が12月8日に行軍訓練を行いました。朝5時半に田野駅前を出発して岸本の駐屯地に午後3時帰着するまで約30kmを、迷彩服で小銃を携行した隊員約60名が国道沿いに市街地行軍をしたものです。12月8日は太平洋戦

署名集約状況 12/11現在

会員団体名	署名目標	到達
県労連	20,000	4,315
県教組		1,783
高教組	10,000	734
私学教組		30
自治労連		3,874
県国公		2,200
福祉保育労	3,000	70
平和委員会	5,000	702
民青同盟		
新婦人	20,000	18,013
商工団体連合会	15,000	16,718
自由法曹団		
地域人権連		
高退協		100
治維同盟		
梅原憲作		
共産党県委員会	40,000	2,454
医労連		77
民医連		12,652
学習協		
山下道子法律事務所		
退教協		750
退婦教		3,340
農民組合		
その他		732
街頭署名		5,062
小計		73,606
母連		11,449
うち重複集約(報告)分		9,269
有権者過半数目標/到達合計	331,000	75,786
こうち九条の会街頭署名		7,367

争が始められた日であり、平和を考え、二度と戦争を起さない決意を固める日でなければなりません。12月5日県労連など6団体10名余が施設中隊に中止の申し入れを行いました。門扉も開けず鉄柵越しに要請書を受け取る状況で、12月8日の行軍を決行しました。朝5時田野駅前には50人が集まり抗議集会を行いました。到着した部隊はトラックを降りるや否や抗議の声の中を出発しました。安芸市では市役所前抗議集会のあと、安芸橋で抗議行動。香南市ヤシィパーク、岸本駐屯地前でも抗議行動を行いました。この日県下各地で母親運動連絡会は「赤紙」を配り、平和を訴えました。

